

今月は、葉っぱビジネスを立ち上げた「色彩阿蘇」の皆さんをご紹介します。

葉っぱビジネスとは、日本料理などに欠かせない装飾用の草花「つま」を採取して出荷する仕事のことです。イチヨウ、モミジ、柿の葉など阿蘇にふんだんにある資源を利用した、作業的に高齢者にもやりやすいビジネスです。

本市で取り組みを始めたのは、波野地区の有志4人。きっかけは、徳島県上勝町が葉っぱビジネスを大成功したことで、環境が類似する波野でもやれないかと、2年半前、商工会のメンバー14人で視察に行ったこと。上勝町は約2千人の町。そのうちの200人が葉っぱビジネスに従事しており、年収1千万円を超える人もいます。上勝町の葉っぱは全国の料亭などに出荷され見事にブランド化されています。その現場を見た有志の一人、水野さんは「過疎のまちだった上勝町が大成功した理由は、皆が命がけでこれに賭け、頑張ってきたから。町の衰退に危機感があった。そこからの高齢者が多いことを逆手にとった転換が今日本中でうけ上勝町への視察が殺到している」。



作業の様子

毎朝注文一覧を確認。清算後の収益額もパソコンで確認しています。高い収益は、まさに暮らして命を輝かせる」と、過疎の田舎でも、幸せが作られている光景に、阿蘇市でも…と思いを寄せられます。



「色彩阿蘇」の皆さん (波野)

また、水野さんは、一人でも商品づくりに油断を見せたら信用が一瞬で崩れるブランド化の難しさも実感されました。また、森さんは「もうかるといことが、いかに人を元気にするかを見た。葉っぱを一枚でも多く出荷しようとゲートボール場からお年寄りの姿が消え、寝てばかりいたお年寄りが飛び起きる。通院も激減。医療費がかからない町になった。そして作業の一番の楽しみは、パソコン」。

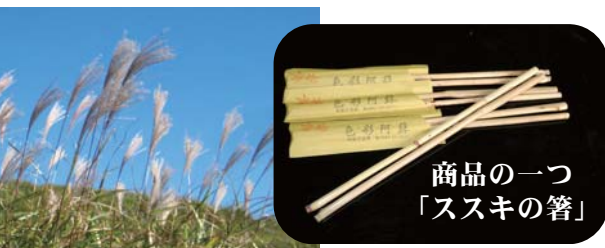
視察後、阿蘇でのビジネス立ち上げが検討され、平成19年12月「色彩なみの」(会長水野日出男氏)を設立。その後、規模を阿蘇市全域に広げ、平成21年度県のチャレンジ支援事業を受け、「色彩阿蘇」を発足させました(平成22年度会長は森新一氏)。商品は、葉、花、つぼみ、木の実、ミニ門松、ススキの箸など。「出だして販路や人手、作業場などまだまだ課題が多い。しかし、高齢者に光をと

もすこの取り組みが、阿蘇市の産業を元気にする起爆剤になればと思う。手分けしこれから営業活動に回るが料亭や旅館でうまく説明できるように皆で勉強中です」と皆さん。

「阿蘇で幸せに暮らすために」この言葉が阿蘇市全体に発信したい皆さんの思いであり、やる気の源です。

「色彩阿蘇」では、メンバーを募集しています。興味のある方はお問い合わせください。

葉っぱビジネス「色彩阿蘇」
☎24-2811
(阿蘇市商工会波野支所内)



究極のエコ箸「ススキの箸」
阿蘇の郷土料理をひきたてるススキの箸。福岡で行われた「あそんだご汁キャンペーン」の際にもススキの箸が登場。めずらしい！使いやすい！と会場で大好評でした。